

平成23年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点											
①	基本的な生活習慣（「挨拶・掃除・身なり」と「早寝・早起き・朝ご飯」）、学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	基本的な生活習慣の確立を図る。	生徒指導	さわやかな挨拶ができるように、朝の挨拶運動に力を入れる。	A 90%以上の生徒が挨拶できる。	生徒が自主的に挨拶をするように指導した。中間No.1	3.5	A 自分からすすんで挨拶をする。	3.2	A 自分からすすんで挨拶をする。	3.3	毎朝、登校時に職員による登校指導を実施した。また、生徒会執行部によるあいさつ運動を定期的に行なった。	登校のみならず、日常生活の中でも積極的に元気なあいさつができるような生徒の育成をめざす。											
				B 70%以上の生徒が挨拶できる。	B 時々自分から挨拶をする。			B 時々自分から挨拶をする。																
				C 50%以上の生徒が挨拶できる。	C 声をかけられれば挨拶をする。			C 声をかけられれば挨拶をする。																
				D 挨拶ができる生徒は50%未満である。	D 挨拶をしない。			D 挨拶をしない。																
			美化委員会	職員が模範となって清掃指導に取り組み、清掃に対する生徒の意識を高める。	A 90%以上の生徒が掃除ができた。	毎日の清掃指導を行った。中間No.2	3.9	A 自分からすすんで掃除をする。	2.3	A 自分からすすんで掃除をする。	2.6	A 自分からすすんで掃除をする。	2.6	全職員による清掃指導を徹底し、協働して取り組むことができた。	委員会の活発な活動を促し、生徒主体のより意欲的な取組ができるように指導する。									
				B 70%以上の生徒が掃除ができた。	B 時々自分から掃除をする。			B 時々自分から掃除をする。																
				C 50%以上の生徒が掃除ができた。	C 言われると掃除をする。			C 言われると掃除をする。																
				D 掃除ができる生徒が50%未満であった。	D 掃除をしない。			D 掃除をしない。																
			生活委員会	登校指導中や朝の会、授業中などで呼びかけを行い、身なりをきちんと整えるよう指導する。	A 90%以上の生徒がきちんとしている。	生徒の身なりの指導をした。中間No.3	3.8	A いつも自分できちんとしている。	3.6	A いつも自分できちんとしている。	3.5	A いつも自分できちんとしている。	3.5	登校指導時や朝の会、授業に行ったときなどに常に気がついたときに服装の乱れなどを指導した。	細かい部分のルールやきまりが徹底できていない面があったので、職員の共通理解のもとで改善を図る。									
				B 70%以上の生徒がきちんとしている。	B 時々注意されることがある。			B 時々注意されることがある。																
				C 50%以上の生徒がきちんとしている。	C 注意されることが多い。			C 注意されることが多い。																
				D きちんとしている生徒が50%未満である。	D 注意されても直さない。			D 注意されても直さない。																
		保健委員会	保健だより等で早寝・早起き・朝ご飯運動を推進することにより、基本的な生活習慣の大切さを認識させ、実践できるように指導する。	A 実施生徒が90%以上であった。	学校は、早寝・早起き・朝ご飯運動の啓発を行った。中間No.4	2.8	A 毎日、早寝早起きをする。	2.6	A 毎日、早寝早起きをする。	2.9	A 毎日、早寝早起きをする。	2.9	健康観察、保健室での様子をから個別に健康指導を行った。また、保健委員会の取組として睡眠時間について調べ発表した。	基本的な生活習慣を整える事がなぜ必要であるかを具体的に示すことで、夜型の生活習慣が変容するように働きかけることが必要である。										
			B 実施生徒が70%以上であった。	B ほぼ毎日、早寝早起きをする。			B ほぼ毎日、早寝早起きをする。																	
			C 実施生徒が50%以上であった。	C 早寝早起きができないことが多い。			C 早寝早起きができないことが多い。																	
			D 実施生徒が50%未満であった。	D 早寝早起きができない。			D 早寝早起きができない。																	
		学習規律・集団規律・家庭学習習慣の確立を図る。	生活委員会	学校生活委員が遅刻点検をするなど、生徒会活動と連携して、継続的に指導を行う。	A 90%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。	時間（遅刻をしない・チャイム席・集合時間等）を守るように指導した。中間No.5	3.8	A 毎日、早寝早起きをする。	3.7	A 朝食を毎日食べる。	3.7	A 毎日きちんと守れる。	3.2	登校指導や始業時間の指導などを職員が意識して声かけを行った。	登校指導の声かけや全職員の意識を向上させ、一層の充実を図る。									
				B 70%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。	B 朝食をほぼ毎日食べる。			B 朝食をほぼ毎日食べる。																
				C 50%以上の生徒が登校時間やチャイム席を守れた。	C 朝食を食べないことが多い。			C 朝食を食べないことが多い。																
				D 登校時間やチャイム席を守れた生徒が50%未満だった。	D 朝食を全く食べない。			D 朝食を全く食べない。																
生徒指導・学習委員	各教科で宿題を出し、家庭学習の習慣が身に付くよう指導する。		A 90%以上の生徒が宿題を行った。	家庭学習の習慣が身に付くように指導した。中間No.6	3.1	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	生徒の状況に応じて、課題を設定し、提出させて指導を行った。	提出された課題をどのように評価に反映させていくか検討を継続して行う。											
	B 70%以上の生徒が宿題を行った。		B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。			B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。																		
	C 50%以上の生徒が宿題を行った。		C 家庭学習を週3時間未満する。			C 家庭学習を週3時間未満する。																		
	D 宿題を行えた生徒が50%未満であった。		D 家庭学習を全くしない。			D 家庭学習を全くしない。																		
生徒指導	学習道具を毎日持ち帰らせ、家庭学習への意識を高めるよう指導する。		A 90%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。	学習道具は毎日持ち帰らせるとともに、忘れ物をしないように指導した。中間No.7	3	A 忘れ物をしない。	3.2	A 忘れ物をしない。	3.1	A 忘れ物をしない。	3.1	帰りの会などを利用して、持ってくるものを確認し、学習道具の持ち帰り、忘れ物がないように指導した。学期末などに持ち帰りを徹底した。	生徒の学習意識を向上させていくために具体的な取組設定が必要である。											
	B 70%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。		B 時々忘れ物をする。			B 時々忘れ物をする。																		
	C 50%以上の生徒が毎日学習道具を持ち帰った。		C 忘れ物をする人が多い。			C 忘れ物をする人が多い。																		
	D 毎日学習道具を持ち帰った生徒が50%未満であった。		D 毎日忘れ物をする。			D 毎日忘れ物をする。																		
生徒指導	全校集会・学年集会や講演会などで集団規律の指導を行う。	A 集会の時、整列して私語がない生徒が90%以上だった。	集団としての規律（整列・私語・集合時間）やマナーが身に付くように指導した。最終No.3	3.4	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	A 家庭学習を週7時間以上する。	2.4	全校集会や学校行事、学年集会などことある毎に集団規律について指導した。	人の話を聞くときの姿勢・態度について、頭をあげてきちんと話の内容に耳を傾けることを強く指導する。												
	B 集会の時、整列して私語がない生徒が70%以上だった。	B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。			B 家庭学習を週3時間以上7時間未満する。																			
	C 集会の時、整列して私語がない生徒が50%以上だった。	C 家庭学習を週3時間未満する。			C 家庭学習を週3時間未満する。																			
	D 集会の時、整列して私語がない生徒が50%未満だった。	D 家庭学習を全くしない。			D 家庭学習を全くしない。																			
②	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、確かな学力の向上を図る学習指導の工夫改善を推進する。	授業時間の確保を図る。	教務	裁量の時間等を活用し、授業時間の確保に努める。	A 授業時間が規定以上に確保できた。							時間割を工夫し、裁量時間を最大限利用し、授業時間の確保に努めた。	新しい学習指導要領に適切に対応していく必要がある。											
				B 授業時間が規定通りに確保できた。																				
				C 授業時間が規定に5%未満、満たなかった。																				
				D 授業時間が規定に5%以上、満たなかった。																				
		基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	学力向上推進	学力向上週間を設定し、数学・英語の学力向上を目指す。	A 90%以上の生徒が課題に対して向上が見られた。									学力向上に向けて、数学、英語の基礎的な内容の習熟に努めた。	数学、英語以外の教科でも学力向上の取組を実施していく。									
				B 70%以上の生徒が課題に対して向上が見られた。																				
				C 50%以上の生徒が課題に対して向上が見られた。																				
				D 課題に対して向上した生徒は50%未満である。																				
		学校の研究テーマ「全ての子どもに基礎学力を定着させることを目的とした学習活動の工夫」に基づく学習指導の工夫改善（指導主事要請授業）を推進する。	教務	指導主事を要請した授業研究を行い、専門性と指導力を高める。	A 90%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。	わかりやすい授業を心がけ、授業の工夫・改善に努めた。最終No.5	2.9	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	授業が工夫されていてわかりやすい。最終No.6	全教科による指導主事要請の研究授業を実施し、授業力の向上のため最大限努力した。									
				B 70%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。	3.1											3.1	3.1	3.1	3.1					
				C 50%以上の教科で指導主事を要請した授業研究を実施した。																3.5	3.5	3.5	3.5	3.5
				D 指導主事要請の授業研究を実施した教科が50%未満だった。																				
電子黒板を活用した全職員対象の授業改善校内研修会を開催する。	情報教育	研究授業による電子黒板を活用した校内研修を2回以上実施した。	A 研究授業による電子黒板を活用した校内研修を2回以上実施した。									研究授業等で電子黒板を活用した授業を実施し、協議会において活用法の研究を行った。	・電子黒板の特性と機能を分析し、具体的な活用と領域を調査研究する。 ・電子黒板を常設する教室を整備する。											
		B 研究授業による電子黒板を活用した校内研修を1回実施した。																						
		C 電子黒板を活用した校内研修を実施した。																						
		D 電子黒板を活用した校内研修を実施しなかった。																						
習熟の程度、個に応じたきめ細かな学習指導の工夫改善を図る。	少人数指導等推進	習熟度の状況把握に努め、それに応じたグループ編成やクラス編成を行う。	A 年に3回以上グループ編成やクラス編成を行った。									教科の単元に応じて、TT授業を実施し、生徒に個別の指導を行った。	教科や単元の特性に応じて、生徒の関心・意欲を向上させるような取組を継続していく。											
		B 年に2回グループ編成やクラス編成を行った。																						
		C 年に1回グループ編成やクラス編成を行った。																						
		D グループ編成やクラス編成を行うに至らなかった。																						

平成23年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指標	評価基準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点																					
③	生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を克服する特別支援教育の充実を図る。	生徒一人一人の発達段階や特性等を生かした生活指導及び学習指導を行う。	特別支援教育	特別に支援を必要とする生徒を把握し、個別の年間指導計画を作成する。	A 特別に支援が必要な生徒の実態を把握し、個別の年間指導計画の作成を行い、計画に沿って指導が行えた。							特別に支援が必要な生徒に対して個別の指導計画を作成し、修正しながら指導を行うことができた。	年度末に個別の指導計画の評価を行うようにする。																					
		将来の就労に向けて、好ましい人間関係を自らつくることのできるような学級集団づくりを行い、協調性と思いやりの心を育てる。		調理実習や奉仕活動、体験活動を通じて協調性や思いやりの心を育てる。	A 学期に2回程度実施できた。							B 学期に1回実施できた。	C 年間で1回実施できた。	D 実施できなかった。	実習や校外活動、体験活動を実施し、コミュニケーション能力や社会性を学ばせる事ができた。	本年年度の計画を継続して実施していく。																		
		集団参加の力と社会性を育て、共に育ち合う交流活動を推進する。		交流学級での活動に積極的に参加していく。	A 全生徒が、交流学級での活動を行った。							B 半数以上の生徒が、交流学級での活動を行った。	C 1人の生徒が交流学級での活動を行った。	D 1人も交流学級で活動することができなかった。	学校行事や学年の取組において積極的に交流学級の活動に参加することができた。	本年年度の計画を継続して実施していく。																		
		家庭や関係機関との連携を図るとともに、将来の希望や具体的な目標を持つるように適切な進路指導を行う。		卒業後の進路保障を確実にする。	A 卒業生全ての進路保障することができた。							B 半数以上の卒業生の進路報告をすることができた。	C 半数未満の卒業生の進路保障をすることができた。	D 1人も進路保障をすることができなかった。	本人、保護者とも十分に話し合い、生徒の希望する進路を保障することができた。	本年度同様に、保護者との連携を密に進路指導をおこなっていく。																		
		④		学校図書館の機能の充実と計画的な利用を推進し、望ましい読書習慣の形成を図る。	学校図書館の常時開館を目指す。							学校図書館職員	学校図書館職員とブックヘルパーを活用し、常時開館できる体制をととのえる。	A 毎日開館することができた。	学校は、読書の習慣が身に付くように指導した。中間No.8	3.6	A 2週間に一冊程度本を読む。 B 1ヶ月に一冊程度本を読む。 C 3ヶ月一冊程度本を読む。 D 本を読まない。	2.9	A 2週間に一冊程度本を読む。 B 1ヶ月に一冊程度本を読む。 C 3ヶ月一冊程度本を読む。 D 本を読まない。	3.1	ブックヘルパーの協力もあり、常時開館を実施し、生徒の読書活動の推進を進めた。	次年度も継続して取組を行っていく。												
					図書を読みやすく居心地のよい学校図書館の環境を整備する。								本の配置図を掲示したり、新着図書の紹介をしたりして、生徒が利用しやすい環境をつくる。	A 掲示物や新着図書の紹介を随時更新することができた。							B 掲示物や新着図書の紹介の更新を月1回以上することができた。	C 掲示物や新着図書の紹介の更新を学期に1回することができた。	D 掲示物や新着図書の紹介を行うことができなかった。	学校図書館職員を中心に、部活動生徒も協力して、生徒が利用しやすく明るい図書館になるよう環境づくりを行った。	今の環境を保ちながら、さらに一層の充実を図っていく。									
					図書について、生徒への情報提供や相談活動を行う。								学校図書館職員及びブックヘルパーによるレファレンスサービスの充実を図る。	A 授業と連携して蔵書の充実を図り、図書館便りを発行し、生徒へのレファレンスサービスを随時実施した。							B 授業との連携を意識して、蔵書の充実を図り、生徒へのレファレンスサービスを随時実施することができた。	C 生徒へのレファレンスサービスを実施することができた。	D 生徒へのレファレンスサービスを実施することができなかった。	掲示板や図書館だより等を利用して、学習に役立つ内容を紹介したり、図書館の利用を勧めたりすることができた。	次年度も取組を継続して行っていく。									
					学校図書館を活用した授業を推進する。								学校図書館を利用した授業の実施に努めるとともに、読書習慣の形成を図る。	A 学期に2回以上図書館を利用した授業を実施した。							B 学期に1回図書館を利用した授業を実施した。	C 図書館を利用した授業を実施した。	D 図書館を利用した授業を実施することができなかった。	教科によって授業で調べ学習を実施したり、読書習慣の向上などの取組を行った。	次年度も取組を継続して行っていく。									
					朝の10分間読書に取り組む。								全校一斉の朝の10分間読書に取り組み、生徒の読書習慣の定着を図る。	A 90%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。							B 70%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。	C 50%以上の生徒が朝読書を真面目に取り組んだ。	D 朝読書を真面目に取り組んだ生徒が50%未満だった。	年間を通して、全校一斉の朝の10分読書を実施し、生徒の読書習慣の定着を図ることができた。	朝読書により、生徒の読書習慣の向上が見られるため今後も取組を継続していく。									
					⑤								豊かな体験を通して、一人一人の内面に根ざした道徳性を養う道徳教育を推進する。	道徳の時間を確保する。							道徳教育	年間指導計画に基づき実践し、生徒の実態に応じた道徳資料を準備するなど指導方法の工夫改善を行う。	A 重点目標に力点を置いて計画した全ての項目が実施でき	思いやりの心が育つように指導した。最終No.2	3.4	子どもさんは、思いやりの心が身についている。最終No.2	3.1	思いやりの心を持って行動している。最終No.2	3.2	道徳の時間を確保し、生徒の実態に応じて資料を用意し、実施するよう努力した。	年間計画に準じた道徳の時間での取組が必要である。			
														全職員対象の道徳校内研修会を開催する。								全教師が道徳の基本方針を踏まえ、共通理解が図られるよう研修の場を設ける。	A 指導主事を要請し、道徳校内研修を年間1回実施した。							B 授業研究を伴った、道徳校内研修を年1回実施した。	C 道徳校内研修を実施した。	D 道徳校内研修を実施しなかった。	命の大切さや人に対する思いやりを生徒に伝えるために校内研修会を実施し、職員の意識向上に努めた。	道徳教材の充実を図り、担任が負担にならないように道徳の時間を確保するための工夫を行う。

平成23年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点			
⑥	学校、生徒、地域の実態等をもとに創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成し、生徒と教師ともに本物の感動を体験できる教育活動の創造・実践に努める。	体験的な活動・奉仕活動・学校行事等の充実を図るため、総合的な学習の時間を活用した取組を行う。	文化的行事・体育的行事 総合的な学習	単元計画に則り、各学習活動を計画的継続的にを行い、指導の工夫改善に努める。	A 調べ学習などの体験学習を計画的・継続的に実施し、指導の工夫・改善に努めた。							総合的な学習の時間などを利用し、生徒の興味や関心を高める調べ学習を実施した。	次年度から総合的な学習の時間が減少するが、充実した取組を継続したい。			
					B 調べ学習などの体験学習を計画的・継続的に実施した。											
					C 調べ学習などの体験学習を計画的に実施した。											
					D 調べ学習などの体験学習を計画的に実施できなかった。											
				生徒の自主的・創造的・組織的な活動を企画・運営する。 <体育大会>	A 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、リーダーを中心として全体の練習計画の立案と実施を行った。										体育大会では、3学年を中心に、積極的に活動に参加し、行事の成功に努めた。	今年度同様に生徒会執行部、知育委員長を中心に活動を行い、体育大会を盛り上げたい。
					B 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、リーダーを中心として全体の練習を行った。											
					C 生徒が主体的にダンス・組体操を創造し、練習を行った。											
					D 生徒が主体的にダンス・組体操の練習を行った。											
				生徒の自主的・創造的・組織的な活動を企画・運営する。 <文化祭>	A 生徒が主体的に合唱の取組を行い、リーダーを中心として練習計画の立案と実施を行った。										文化祭では、特に合唱コンクールの取組で各学級で主体的に練習を行い、協力する大切さと感動する心を得ることができた。	本年度の合唱コンクールの取組を次年度にどのような形式で行うかの検討が必要である。
					B 生徒が主体的に合唱の取組を行い、リーダーを中心として練習を行った。											
					C 生徒が主体的に合唱の取組を行い、皆が協力して練習を行った。											
					D 生徒が主体的に合唱の取組を行った。											
			保護者の方々と連携したクラスマッチ、百人一首大会等の取組を計画、実施する。	A 保護者の方々と連携した行事を年5回以上行った。										クラスマッチでの豚汁づくりを保護者にお願し、温かい支援を受けることができた。	次年度も継続して取組を行っていく。	
				B 保護者の方々と連携した行事を年4回行った。												
				C 保護者の方々と連携した行事を年3回行った。												
				D 保護者の方々と連携した行事を年2回行った。												
			北九州エコツアー、キャリアアドバイザー活用事業、講師を招聘しての国際理解教育等を通じて生徒に充実した体験をさせる。	A 年間6回以上の体験活動を実施した。										エコツアー、技の達人講演会等、講演会を実施し、生徒が心に残る体験活動を実施することができた。	次年度も継続して取組を行っていく。	
				B 年間3回以上の体験活動を実施した。												
				C 年間1回の体験活動を実施した。												
				D 体験活動を実施することができなかった。												
3UP事業（体力UP・スキルUP・人間力UP）として、部活動の活性化と充実を図るため、指導者を定期的に招聘する。	A 年間5回以上、指導者を招聘して取り組みを実施した。										生徒の技術力向上のために、講師を招選し、質の高い指導を行うことができた。	本年度の取組を生かし、生徒の一層の技術力向上を指導していく。				
	B 年間4回、指導者を招聘して取り組みを実施した。															
	C 年間3回、指導者を招聘して取り組みを実施した。															
	D 指導者を招聘して取り組みを実施できなかった。															
⑦	集団の力を高める特別活動、勤労観・職業観を育てるキャリア教育を推進する。	学級会活動の時間の充実を図る。	特別活動	A 学級会活動に90%以上の生徒が積極的に参加した。								学級毎に生徒の実態に応じた活動を計画し、積極的に参加させることができた。	総合的な学習の時間と関連させた進路指導の時間の充実を行っていく。			
				B 学級会活動に70%以上の生徒が積極的に参加した。												
				C 学級会活動に50%以上の生徒が積極的に参加した。												
				D 学級会活動に50%未満の生徒が積極的に参加しなかった。												
		生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動等）の充実を図る。	生徒会	A 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）に90%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。	生徒に生徒会活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持たせ、積極的に参加するよう指導した。最終No.6	3.5	子どもさんは、生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持ち、協力している。最終No.6	2.5	生徒会が行っている活動（生徒会行事、委員会活動、リサイクル活動など）に関心を持ち、協力している。最終No.6	2.6	たよりなどで学級に取組の周知を行い、活動への参加を啓発した。「人生一冊プロジェクト」では本の寄贈を呼びかけ、多くの本が集まった。	震災復興の支援を次年度も計画し実行していきたい。				
				B 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）に70%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。												
				C 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）に50%以上の生徒が呼びかけに応じて協力した。												
				D 生徒会活動（委員会活動、リサイクル活動等）の呼びかけに応じて生徒が50%未満であった。												
		キャリア教育（勤労観・職業観）の視点に立った進路指導の充実を図る。	特別活動	A 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施し、指導の充実を努めた。								職業調べや高校調べ、高校体験入学などを計画的に実施した。	調べ学習、体験学習の充実を図る。			
				B 調べ学習および体験学習を計画・継続的に実施した。												
				C 調べ学習および体験学習を計画的に実施した。												
				D 調べ学習および体験学習を計画的に実施しなかった。												
		集団としての目標を共有し、自他や学校のよさに気付く集団活動の充実を図る。	総合的な学習 特活・道徳	A 特活・総合・道徳・各教科等において集団の教育力に着目した取り組みを行い全職員の研修を年1回以上実施した。								集団活動による取組を各学年で設定し、取り組むことで集団としての規律や協働の喜びを実感させることができた。	本年度の取組を継続して実施していく。			
				B 特活・総合・道徳・各教科等において集団の教育力に着目した取り組みを行えた。												
				C 特活において集団の教育力に着目した取り組みを行えた。												
				D 集団の教育力に着目した取り組みができなかった。												

平成23年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点		
⑧	人権意識の高揚と確かな人権感覚を身に付ける人権教育を推進する。	人権学習の取組を積極的に行う。	人権教育	人権学習を行い、人権啓発作品を製作させる。	A 90%以上の生徒が作品を提出した。							夏季休業日の課題として、全生徒対象に人権作品を提出させ、多くの作品が入賞した。	よりよい人権作品の制作を目指し、継続して指導を行っていく。		
				B 70%以上の生徒が作品を提出した。											
				C 50%以上の生徒が作品を提出した。											
				D 作品を提出した生徒が50%未満だった。											
		人権教育講演会を行い、人権意識の高揚を図る。	人権教育講演会の充実に努める。	A 人権教育講演会を開催し、事後学習を行った後、全生徒に感想文を書かせた。	B 人権教育講演会を開催し、事後学習を行った。	C 人権教育講演会を開催した。	D 人権教育講演会を行うことができなかった。	人権教育講演会の充実に努めた。					てんつくマンによる「奇跡は起こり連鎖する」の講演を行い、生徒がよりよい人権感覚を身に付ける機会を設定した。	生徒の心に響く題材の選定に努める。	
				B 人権教育講演会を開催し、事後学習を行った。											
				C 人権教育講演会を開催した。											
				D 人権教育講演会を行うことができなかった。											
		生徒一人一人が人権への配慮を日常の態度や行動に現せるように人権感覚を育てる。	人権啓発映画や人権啓発テープを活用した人権学習や朝の人権放送を計画的に行う。	A 人権啓発映画と人権啓発テープを使って人権学習を実施した。	B 人権啓発テープを使って人権学習を実施した。	C 人権学習を実施した。	D 人権学習をしなかった。	映画や朗読CDを使って人権学習を計画的に行った。					DVD「107+1〜天国はつくるもの〜パート2」を全生徒、職員、希望した保護者が鑑賞し、人権意識を高める事ができた。	他者への思いやりの意識を高めるために継続して指導を行う。	
				B 人権啓発テープを使って人権学習を実施した。											
				C 人権学習を実施した。											
				D 人権学習をしなかった。											
⑨	社会の変化に対応した環境教育、情報・視聴覚教育、福祉教育を推進する。	環境教育の取組を一層推進する。	生徒会	年間を通じてペットボトルキャップや古紙回収を推進する。	A ペットボトルキャップや古紙の回収を呼びかけ、実際に回収を行い、リサイクル活動を実施した。							年間を通じてペットボトルと古紙の回収を実施し、多くのリサイクル資源を集めることができた。	本年度の取組を継続し、一層の充実に図る。		
				B 積極的にペットボトルキャップや古紙の回収を呼びかけた。											
				C 古紙回収を行った。											
				D 取り組みを実施できなかった。											
		パソコン教室等の一層の活用と情報活用能力の育成を図る。	情報教育	各教科及び総合的な学習の時間等で、パソコンを活用した授業を計画的に実施する。	A 調べ学習や教科の授業で年間3回以上パソコンを活用した。	B 調べ学習や教科の授業で年間2回パソコンを活用した。	C 調べ学習や教科の授業で年間1回パソコンを活用した。	D パソコンを活用した授業を実施できなかった。					調べ学習や文化祭の取組等でパソコンを有効利用することができた。	・パソコン教室の整備を進め、ソフトを活用した授業を積極的に行う。 ・液晶モニターを活用した方法を研究する。	
				B 調べ学習や教科の授業で年間2回パソコンを活用した。											
				C 調べ学習や教科の授業で年間1回パソコンを活用した。											
				D パソコンを活用した授業を実施できなかった。											
		電子黒板・視聴覚資料や機器の活用を図る。	視聴覚教育	視聴覚教材・教具を使いやすく整備する。	A 視聴覚教材・教具が日常的に授業で使用された。	B 視聴覚教材・教具がよく使用された。	C 視聴覚教材・教具が利用しづらかった。	D 視聴覚教材・教具が整理されず、散逸してしまった。						視聴覚機器の保管場所を整理し、職員の共通理解を図ることで円滑な教材・教具の使用ができるようになった。	さらに視聴覚機器の使用が円滑に行えるように環境を整備し、より一層の充実に図る。
					B 視聴覚教材・教具がよく使用された。										
					C 視聴覚教材・教具が利用しづらかった。										
					D 視聴覚教材・教具が整理されず、散逸してしまった。										
校内放送の充実に努める。	視聴覚教育		視聴覚教室の整備に努め、プロジェクター、電子黒板などの教具を常設し、視聴覚室の利用を促進する。	A 視聴覚教室が週5回以上使用された。	B 視聴覚教室が週3回以上使用された。	C 視聴覚教室が週1回程度であった。	D 視聴覚教室の使用が週1回に満たなかった。						視聴覚室の整備に努め、大型テレビやDVDなどを常設し、授業で有効利用することができた。	視聴覚室利用の頻度を増やし、計画的に各教科で使用できるように工夫していく。	
				B 視聴覚教室が週3回以上使用された。											
				C 視聴覚教室が週1回程度であった。											
				D 視聴覚教室の使用が週1回に満たなかった。											
				A 朝の放送と掃除の放送が、毎日行われた。	B 朝の放送が、毎日に放送された。	C 朝の放送が、毎日放送されないことがあった。	D 校内放送がなされなかった。					朝、昼休み、掃除時間に放送部を中心にして毎日欠かさず校内放送を実施した。	放送部を中心に今後もこの取組を継続していく。		
				B 朝の放送が、毎日に放送された。											
				C 朝の放送が、毎日放送されないことがあった。											
				D 校内放送がなされなかった。											

平成23年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指標	評価基準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点							
⑩	好ましい人間関係を育て楽しい学校生活の実現を図るとともに、組織的な生徒指導体制の確立（報告・連絡・相談・確認）と家庭・地域・関係機関等との連携を推進しながら、教育活動全体を通して生徒一人一人の自己指導能力を育成し、自己実現を目指す積極的な生徒指導を推進する。	問題行動を抑制する生徒指導から、生徒のよさを届け伸ばすなど、自己実現を目指す積極的な生徒指導を推進する。	生徒指導	生徒個々の状況を的確に把握するために、必要に応じて教育相談、生徒指導を行う。	A 学期に1回の教育相談期間の設定と適時教育相談を行い、生徒の状況把握に努め、適切な生徒指導を行った。 B 年間1回の教育相談期間の設定と適時教育相談を行い、生徒の状況把握に努め、生徒指導を行った。 C 適時教育相談を行い、適切に生徒指導を行った。 D 教育相談を行うことができなかった。							定期的に教育相談を実施し、生徒の状況把握に努めた。また、個々の生徒の状況に応じて個別に指導を行った。	教育相談の設定時期や時間の確保、実施前の事前アンケートの内容について再検討し、より効果的な取組を目指す。							
		好ましい人間関係を育て楽しい学校生活の実現を図る教育活動（不登校対策・心のアンケート）を推進する。	生徒指導	S、Cや関係職員と連携し、学級担任や生徒指導係が家庭訪問や電話連絡を行い予防を行う。	A 関係職員が週2回以上不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。 B 関係職員が週1回不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。 C 関係職員が月に1回以上不登校生徒宅の家庭訪問を実施した。 D 関係職員が不登校生徒宅の家庭訪問を実施しなかった月がある。	生徒が毎日楽しく学校に行けるように取り組んだ。最終No.1	3.3	子どもさんは、毎日楽しく学校に行っている。最終No.1	3.1	毎日楽しく学校に行っている。最終No.1	3.4	電話連絡、家庭訪問を通して不登校生徒の状況把握に努め、職員の共通理解を行った。	定期的な家庭訪問の実施や不登校生徒を生じさせないための家庭連絡・家庭訪問の在り方について検討し、共通理解のもとで実施する。							
		生徒理解・共通理解・共通行動のための「報告・連絡・相談・確認」「記録」の徹底と家庭とのきめ細かな連携を図る。	生徒指導	研修会等を通して、徹底すると同時に家庭との連携を密にする。	A 「報告・連絡・相談・確認」「記録」が機能的に行われ、家庭とのきめ細やかな連携を行った。 B 「報告・連絡・相談・確認」「記録」が機能的に行われ、家庭との連携を行った。 C 「報告・連絡・相談・確認」「記録」が機能的に行われた。 D 「報告・連絡・相談・確認」「記録」が行われなかったことがあった。									毎月、生徒指導委員会を開催し、生徒の状況把握と共通理解に努めた。また、計画的に職員研修会を実施した。	次年度も月1回の委員会を計画的に実施し、職員の共通理解のための研修会を適宜開催していく。					
		危機管理意識を高める「生徒指導マニュアル・危機管理マニュアル・不審者対応マニュアル」の徹底を図る。	生徒指導	危機管理マニュアルを周知徹底し、危機管理意識を高める。	A 危機管理マニュアルを配布し、周知徹底するために不審者対応の研修会を行った。 B 危機管理マニュアルを全職員に配布し、周知徹底した。 C 危機管理マニュアルを全職員に配布した。 D 危機管理マニュアルの周知徹底に至らなかった。	危機管理マニュアル・不審者対応マニュアルなどに沿って安全点検を行った。最終No.7	3.1	学校は、施設面や不審者等の外部からの侵入者に対して安全・安心である。最終No.7	2.7	学校は、安心・安全である。最終No.7	3.0	危機管理マニュアルの見直しを行って修正を加え、より充実したマニュアルを作成し、職員に周知徹底した。	マニュアルに沿った対応ができるように、共通理解や実践形式の研修会を実施して、職員の危機管理意識をさらに高める。							
		月一度の安全点検を実施する。	安全指導	月1度の安全点検を実施し、安全に対する意識を高める。	A 毎月、安全点検を実施した。 B 学期に1回、安全点検を実施した。 C 年に1回、安全点検を実施した。 D 安全点検を実施できなかった。									計画的に月1度の校内安全点検を実施することができた。	次年度も最低月1回の安全点検を実施し、生徒の安全確保に努める。					
		⑪	生涯を通じて心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための健康教育（学校保健・学校安全・食育）を推進する。	地震・火災を想定した避難訓練、不審者対応の避難訓練を実施する。	安全指導	若松消防署と連携した地震・火災を想定した避難訓練を年間2回実施する。	A 若松消防署と連携した避難訓練を年間2回実施した。 B 若松消防署と連携した避難訓練を年間1回実施した。 C 年1回の避難訓練を実施した。 D 避難訓練を実施しなかった。							防災訓練を2度実施し、消防署職員を招いて防災に関する講演会を行った。	外部から講師を招選しての取組は継続していく。また、年度当初から計画的に行事に取り入れていく必要がある。					
				救急救命講習会を開催する。	保健指導	救急救命講習会を開催する。	A 消防署の方を講師に招いての職員・生徒向けの救急救命講習会を年間2回実施した。 B 消防署の方を講師に招いての生徒向けの救急救命講習会を年間1回実施した。 C 救急救命講習会を年間1回実施した。 D 救急救命講習会を実施できなかった。								全学年、全職員を対象に講師を招いての救急救命講習会を開催することができた。	今年度の取組同様に継続して実施していく。				
				熱中症予防、性に関する指導の充実を図る。	保健指導	各学年の実態に応じた「性に関する指導」と「熱中症予防講演会」を実施する。	A 全学年で実施した。 B 2つの学年で実施した。 C 1つの学年で実施した。 D アンケートのみ実施した。								全学年で「性に関する指導」を実施し、1学年で、講師を招いての「熱中症に関する講話」を開催することができた。	実技指導がスムーズにできるように、事前の打ち合わせを綿密に行う。				
				若松署と連携した「薬物乱用防止教室」「青少年を暴力団から守る教室」等を実施する。	生徒指導	「薬物等乱用防止教室」と「暴走教室」「インターネットによるいじめ防止教室」を実施する。	A 年間1回ずつ薬物等乱用防止教室、暴走教室、インターネットによるいじめ防止教室を実施する。 B 年間1回ずつ薬物等乱用防止教室、暴走教室、インターネットによるいじめ防止教室を実施する。 C 年間に1回はどれかの教室を実施する。 D どれも実施できなかった。									講師を招いて「青少年を暴力団から守る教育」を実施し、全学年を対象に「ネットによる誹謗中傷・いじめ等防止講演会」を開催した。	薬物等乱用防止の指導については、授業を通じて今年度は実施したが、来年度は学校・学年行事として取り組むようにする。			
				食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化などを身につけることができるような活動を実施する。	給食推進	給食指導致	食育便りを発行することにより、「食」の大切さを意識づける。	A 年3回以上発行した。 B 年2回発行した。 C 年1回発行した。 D 発行しなかった。								食育だよりを毎月配布することができた。	クラス掲示等で委員会が率先して行う必要がある。			
				給食・委員会	牛乳パックと残食の減量化を推進する。	A 牛乳パックと残食がかなり減量化された。 B 牛乳パックと残食が概ね減量化された。 C どちらかは概ね減量化された。 D どちらも減量化に至らなかった。										厚生委員会により、牛乳パックと残食の減量化を促す啓発活動を実施した。	良い取組をしているクラスを表彰するなどの褒める活動を取り入れる必要がある。			
						給食・委員会	給食で使われている食材の情報を放送で実施する。	A 毎日、放送により食材情報の提供を実施した。 B 週2回以上、放送により食材情報の提供を実施した。 C 週1回、放送により食材情報の提供を実施した。 D 食材情報の提供を実施することができなかった。									厚生委員会を中心に、当日の給食の食材情報を放送により広報することができた。	毎日、委員長、副委員長が行っているので委員会全体に広げてもよい。		
								保健体育科	体力の向上を図るため、保健体育科の選択授業でスポーツテストを実施する。	A 全学年でスポーツテストを実施した。 B 2つの学年で実施した。 C 1つの学年で実施した。 D スポーツテストを実施することができなかった。									全学年でスポーツテストを実施し、生徒は活発に参加することができた。	今年度同様に全学年で実施し、できる限り100%に近いデータを集約したい。

平成23年度 北九州市立高須中学校 「自己評価書」

No.	中長期目標	短期目標	担当	指 標	評 価 基 準	教職員自己評価	評価	保護者アンケート	評価	生徒アンケート	評価	取組の考察	次年度改善点			
元 ⑫ 気	学校のよさや特色を積極的な情報発信と学校評価システムの構築を図り、保護者や地域住民から信頼される開かれた学校づくりを目指す。	学校の教育目標の具現化を目指し、教職員の意欲が向上する学校評価システムの一層の充実を図る。	教務	生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し公開する。	A 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施し公開した。							計画通り、生徒・保護者・職員を対象に年2回のアンケートを実施した。	次年度も継続して取組を行っていく。			
					B 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間2回実施した。											
					C 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを年間1回実施した。											
					D 生徒の意識調査・保護者アンケート・教職員の自己評価アンケートを実施しなかった。											
				学校運営説明会・報告会を実施する。	A 学校運営説明会・報告会を実施し、結果を公表した。										計画通り、学校運営説明会・報告会を実施した。	次年度も継続して取組を行っていく。
					B 学校運営説明会・報告会を実施した。											
					C 学校運営説明会を実施した。											
					D 学校運営説明会・報告会を実施しなかった。											
				学校関係者評価委員会の活用を図る。	A 学校関係者評価委員会を年2回実施し、その評価を公表した。										計画通り、学校関係者評価委員会を年間2回実施した。	次年度も継続して取組を行っていく。
					B 学校関係者評価委員会を年1回実施し、その評価を公表した。											
					C 学校関係者評価委員会を年1回実施した。											
					D 学校関係者評価委員会を実施しなかった。											
	各教科の授業公開を推進する。	教務	常時学校開放と研究授業としての公開授業を設定する。	A 毎月1回以上実施した。	授業公開を行うなど開かれた学校づくりに協力した。最終No.9	3.2	学校は、授業公開を積極的に行うなど開かれた学校づくりに努めている。最終No.9	2.9				年間を通して、常時学校開放を行い、全教科による研究授業を公開した。	次年度も常時開放し、研究授業を積極的に行っていく。			
				B 年間6回以上実施した。												
				C 年間3回以上実施した。												
				D 年間2回以下だった。												
学校のホームページの一層の充実を図る。	情報教育	随時更新する。	A 週1回更新した。	学校は、通信やホームページなどを通して情報発信をした。最終No.8	3.5	校長通信（ジャガイモ）や学年通信・学級通信・ホームページなどを通して学校の様子が分かる。最終No.8	3.1			校長通信(ジャガイモ)学年通信・学級通信などを読んでいる。最終No.8	情報教育担当を中心に、随時学校HPの更新をおこなった。	本年度の取組を継続し、一層の充実を図っていく。				
			B 月に2回更新した。													
			C 月に1回更新した。													
			D 更新しなかった。													
校長通信や学年・学級通信等による積極的な学校の情報提供に努める。	各職員 校長	校長通信・ホームページ・学年通信・学級通信を通して学校の情報を発信する。	A 月に2回以上、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。				3.4				校長通信・学年だより・学級だよりを定期的に発行し、広く保護者への情報提供を行った。	本年度の取組を継続し、一層の充実を図っていく。				
			B 月に1回、保護者に配布するとともに、市民センターや各自治会を通して全地域に回覧した。													
			C 月に1回以上、保護者に配布した。													
			D 月に1回以上、保護者に配布できなかった。													

後期保護者アンケートの評価は、上段は達成度下段は重要度を表す。